



まごころ

令和7年11月6日発行
西東京市立田無第三中学校
校長 大久保 順子

教育目標：よく考え進んで実行する人間 思いやりのある心豊かな人間 丈夫な体をつくり心身ともに健康な人間



共感と思いやりの心を育み、希望をもって将来を切り拓く生徒に

校長 大久保 順子

朝夕の空気がひんやりとし、秋の深まりを感じる季節となりました。

先月の合唱コンクール、過日の学校公開、そして道徳授業地区公開講座には、たくさんの保護者・地域の皆さんにお越しいただきました。子どもたちの表情や頑張りを、皆さまと一緒に見守れたことをとても嬉しく思います。ありがとうございました。

11月1日の道徳授業地区公開講座では、助産師の先生をお招きし、命の尊さについてお話を伺いました。「命の奇跡、命はつながっていること」「たくさんの方に支えられて生まれてきたこと」についてお話を伺いました。子どもたちの中からは、「命を大切にしたい」「妊婦さんに会ったらどう行動すればよいか」といった前向きな思いやりにあふれる声があがりました。

先生方からも、「我が子の誕生」に思いを重ね、感謝する心の大切さを語ってくれました。保護者の方からは「子どもに誕生の話を聞かせたい。生徒のみんなも家族の方に聞いてほしい」、地域の方からも「一人一人を思いやり、行動できる大人でありたい。」というご意見をいただき、体育館の中が、やさしい空気とあたたかな気持ちで満たされ、「命を思う心」が重なり合う素敵な時間となりました。学校と家庭、地域が同じ思いで子どもを育んでいることを、改めて実感いたしました。

先月下旬から、1、2年生は生徒と先生との面談、3年生は保護者の方と生徒、担任の三者面談を実施し、生徒の声を丁寧に聴く時間をもっています。子どもたちは、成長とともに考えることも悩みも増えます。対話の機会を大切にし、心に寄り添う時間としています。

実は先日、私自身も考えさせられる出来事がありました。学校からの帰宅途中、駅でスポーツ帰りと思われる中高生の中で、一人の子が囮まれているように見えました。「気のせいかもしれない」「大人が入ったら、かえってよくないかもしれない」そんな思いが頭をよぎり、私は数秒立ち止まってしまいました。「パン」と音が聞こえた気がした瞬間、胸がざわつき、声をかけようとしたときには、子どもたちは走り去っていました。その夜、私はずっと考えました。もしあの子が三中の生徒だったら、もし自分の家族だったら。子どもたちには「困っている人に声をかけよう」と伝えています。でも、いざというときに、大人も迷います。自分の未熟さを痛感し、もっと早く動けたらと胸が締め付けられる想いででした。

地域で子どもを見守るというのは、完璧に助けることではなく、気にかけて目を向けること、小さな勇気をもち続けることを改めて気付かされました。その小さなまなざしの積み重ねが子どもたちにとって「自分は守られている」という安心感につながり、優しさの連鎖を生み出していくのだと思います。

皆さんなら、どのように声をかけたでしょうか。大人も迷い、悩みながら、それでも一步を踏み出そうとする姿を、子どもたちはきっと見ていています。私自身も今回の経験を胸に「次は迷わず一步を」と、次こそはそっと寄り添う行動ができるようにしたいと心に刻みました。

学校では、いよいよ二学期の期末考査が一週間前となり、学期末に向かっていきます。どうか、子どもたちの小さな変化に気付かれましたら、そっと声をかけてあげてください。そして学校にも遠慮なくお知らせください。今後とも温かいお力添えをお願い申し上げます。



<11月の予定>

日	曜	行 事	日	曜	行 事
1	土	ふれあい月間・いじめ防止月間 読書月間始 安全指導 道徳授業地区公開講座	17	月	西東京市巡回ピアノ公演会
3	月	文化の日	19	水	各種委員会
4	火	ふれあい面談期間終	20	木	生徒協議会
5	水	西東京市中学校教育研究会一斉部会 研究授業(1C、2A、2D)	23	日	勤労感謝の日
7	金	マナー講座(3年)	24	月	振替休日
10	月	全校朝会 避難訓練 安全指導	25	火	生徒朝会
12	水	期末考査 虐待防止外部委員会	26	水	脊柱脊椎検診(1年) 職員会議
13	木	期末考査	28	金	川越校外学習(1年)
14	金	期末考査 小中連携部活動体験			

合唱コンクールを終えて

実行委員長 齋藤 雄二

10月17日金曜日に、合唱コンクールを実施しました。今年度も文華女子高等学校さんの講堂をお借りして、コンサート会場で合唱するような、素晴らしい雰囲気で行うことができました。

合唱コンクールが成功して終われるかどうかは、当日までにどこまでクラスの団結を高め、より良い合唱のために一丸となって取り組むことができたかが重要です。そして、当日までの生徒たちの様子を見て、「今回の合唱コンクールは間違いなくいいものになる」と確信できました。放課後練習の時間が始まるとき、どのクラスも真っ先に練習準備を行い、与えられた時間を最大限活用していく、合唱を完成させようという意気込みが伝わってきました。練習以外の時間でも、休み時間や放課後に廊下を歩いていると色々なところから歌声が聞こえて、歌の楽しさを感じながら取り組んでいることが分かりました。

コンクールを最大限楽しむために、実行委員は、自分の役割を一人一人意識し、責任もって力を尽くしてくれました。学校行事として、大舞台を設定して合唱コンクールを成功させるためには、行事を運営する「裏方」の存在が必要不可欠です。実行委員を経験した生徒は、そのことを実感できたと思いますし、きっと周りの生徒も「裏方」に感謝することの大切さに気付いたことでしょう。

この行事で得た学びをこれからの中学校生活に生かしてほしいと願っています。

